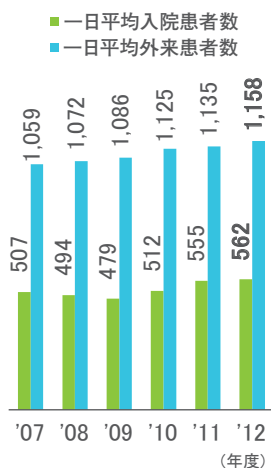


## > 地域とのかかわり



### 最先端の医療を提供～医学部附属病院～

附属病院患者数推移



山形大学医学部附属病院が地域の皆様により高度な医療の提供をするために平成17年度から開始した再整備計画は、平成23年5月をもって病棟部分の改修が終了し、現在は外来・中央診療棟の改修を進めております。その間、急性期医療及び高度医療の推進（手術部、救急部、ICU・HCU等の充実）、診療スペースの改善、外来がん化学療法室の整備拡充、術中MRIや最新鋭のがん関連医療機器であるリニアック（IMRT）、PET/CT及び手術支援ロボット「ダビンチ・サージカルシステム」など、最先端の医療を提供するための設備整備についても併せておこなってまいりました。

再整備において附属病院が重視しているコンセプトは、診療科の境界を越えて、医療の様々な部門が患者の治療のために協力できる環境づくりです。一例を挙げると、再整備後の病棟は、循環器病センター、呼吸器病センター、周産母子センター、脳卒中センターと、診療科別ではなく臓器（疾病）別に構成されています。また、ソフト面においても、がん患者の治療にあたる内科医、外科医に加えて放射線治療、化学療法の専門医らが一堂に会し、症例に応じて最適な医療を検討・提案する山形大学方式キャンサートリートメントボード（がん治療会議）を実施しております。毎年、5,000名超の医師、看護師等が参加し、診療科間の連携により診療水準の高度化に貢献しているシステムの一つとなっております。

附属病院の理念である「人間性豊かな信頼の医療」の実現のため、ハード面・ソフト面の双方について、今後も不断の改善に努めてまいります。

## 「山形文化遺産防災ネットワーク」に文化庁長官が感謝状授与 ～被災した文化遺産のレスキュー作業を通じた被災地支援～

東北に未曾有の被害をもたらした東日本大震災が発生してから、2年半が経過しました。しかし、復興への道のりは、未だ遥かに続いているといわざるを得ないのが現状です。その中で、山形大学及びその学生、教職員は、様々な形で被災地の支援を続けています。

「山形文化遺産防災ネットワーク」（通称「山形ネット」）は、地域に残る文化遺産を災害から守り、未来へ伝承することを目的として2008年に設立されたボランティア団体であり、本学の教職員や学生有志もメンバーとしてこの活動に参加しています。この「山形ネット」では震災以降、岩手県、宮城県の被災文化資料を引き受け、津波でかぶった泥などの除去作業を継続的に行っています。こうした取組が認められ、平成25年3月25日、山形ネットなど文化財レスキューに参加した団体・個人は、文化庁長官から感謝状を授与されました。

また、文化財レスキュー活動は、それまで注目されていなかった被災地の業績に脚光をもたらすこととなりました。地元陸前高田出身の「博物学の巨人」こと鳥羽源蔵は、在野の研究者であり知る人ぞ知る存在でしたが、被災した数万点の資料を救出・修復する過程で、その業績が認知されることとなりました。

平成25年1月11日には、本学にて人文学部主催の講演会「博物学の巨人・鳥羽源蔵が遺したもの」が開催されました。上記のことがきっかけで開催されたこの講演会は、鳥羽博士の業績や文化財レスキュー活動の紹介を通じて、地域の学術文化を守る

ことの意味を考える貴重な機会となりました。



左上、左下：資料修復の作業風景  
下：講演会「博物学の巨人・鳥羽源蔵が遺したもの」の様子



## 山形大学農場フェスティバル開催！

平成25年9月28日（土）、農学部の高坂農場にて「山大農場フェスティバル～月山を背にロックを聴きながら農場を味わおう～」を開催しました。

これは、昨年度初めて実施した「山形大学農場新米ロックフェスティバル」をリニューアルして開催したもので、前回と同様に庄内2市3町で形成する山形大学農学部地域産学官連携協議会から支援をいただき実施しているものです。日頃お世話になっている地域の皆様に広大な農場で音楽を聴きながら自由に過ごしていただくと共に農場活動の一端を紹介させていただくことを目的とした農場一般開放イベントです。

当日は清々しい秋晴れの行楽日和となり、開演前から渋滞ができるほど車が押し寄せ、予想以上の来場者となりました。

午前10時30分にスタートすると、あっという間に地域特産物の販売ブースや山大農場市、新米無料炊き出しコーナーに長蛇の列ができ大盛況となりました。月山を背にしたライブステージからはバンド音楽が響き渡り、トレーラーの荷台に乗って圃場をめぐる農場ツアー！や農機ショー！、脱穀したてのご飯を食べよう！では、見て触って農業を体感できる農場ならではの企画に大喜びではしゃぐ様子が見られました。そのほか、農場で飼育している動物達との触れ合いコーナーや、木工コースター作り、ボルダリング体験などでは親子連れで写真を撮ったりして楽しんでいました。

このたびの入場者数は1100名を超え、地域の多くの方々に高坂農場を紹介することができました。今後も農学部では、地元に根ざした大学として、地域のみなさんとの交流を大事にしていきたいと思っております。



山形大学ではこのようなイベントをはじめ、公開講座など、一般の皆様にも参加していただける催しを行っています。

詳細については、山形大学ホームページ下部の「イベント」をご参照ください。(http://www.yamagata-u.ac.jp/jpn/yu/modules/bulletin2/)

